

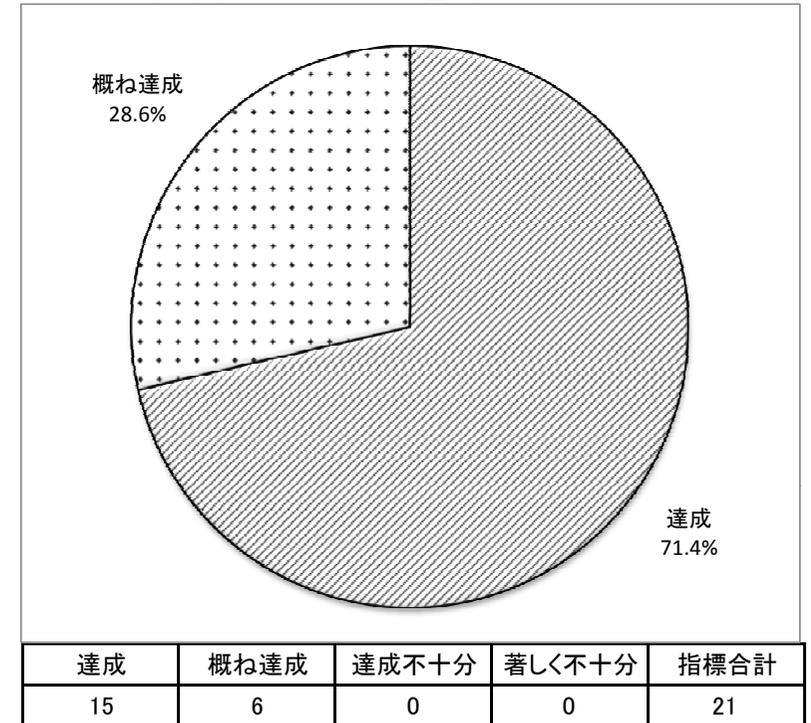
政策評価調書(23年度実績)

政策名 恵まれた環境の未来への継承 ～ごみゼロおおいた作戦の推進～	政策コード I-5	関係部局名 生活環境部、商工労働部、農林水産部、土木建築部
---	--------------	----------------------------------

【Ⅰ. 政策を構成する施策の評価結果】

施策名	指標評価	今後の方向性
1 豊かな自然との共生と快適な地球環境の創造	達成	拡充
2 循環を基調とする地域社会の構築	達成	現状維持
3 地球環境問題への取り組みの推進	達成	拡充
4 すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	達成	現状維持

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅳ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

本県は、緑豊かな山野、大地を潤す清らかな河川、変化に富んだ海岸線、学術的価値の高い貴重な地質遺産など全国に誇れる豊かな天然自然に恵まれている。これらの豊かな自然と共生し将来へ継承していくことが必要である。昨年3月の東北地方太平洋沖地震による、福島第一原子力発電所の事故を契機としたエネルギー問題を受け、節電・省エネ対策や再生可能エネルギーの導入拡大を推進する必要がある。

平成22年10月には、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、生物多様性の保全に向けた取組は更に重要になっている。

このような多様な課題を解決するためには、県民一人ひとりが、自らの行動について考え、行動するとともに、学校や家庭、自治会、職場等が連携・協働しながら環境負荷を低減する取り組みが必要である。

<エコエネルギー導入量の推移>

(単位: 万kl/年)

年度	H19	H20	H21	H22	H23
導入量	50.8	56.9	57.06	58.18	63.17

【Ⅲ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
該当なし	—